

地歴公民科

教科名	地歴科	科目名	世界史A
科目の目標	(1)歴史についての興味関心を深め、基本的な歴史用語を理解する。 (2)歴史の学習を通して現代社会についての理解を深め、歴史の方法論を学ぶ。		
履修学年	3年	類型	文系・理系共通
単位数	2単位	履修形態	選択
教科書	世界史A(東京書籍)	副教材等	なし

①学習の目標

- (1)人間の尊重と科学的な探求の精神にもとづき、広い視野を持って歴史とそこに存在している人間についての理解を深める。
- (2)混迷を深める国際社会を生き抜くための世界観を提示し、自主的・意欲的な学習に結びつける。

②学習内容と授業の進め方

第1部 世界の一体化と日本

東アジアの文明・南アジアの文明
西アジア・北アフリカの文明・ヨーロッパの文明
ヨーロッパとアメリカの諸革命
東アジアの大変動

第2部 地球社会と日本

第一次世界大戦がもたらしたもの
民族自決を求めて
経済危機から第二次世界大戦へ

③学習に当たっての留意点

歴史は、人類の営みの探求であり、興味深いものである。また、適切な歴史観が社会を見る目を養い、現代社会の諸問題の解決に重要な意味を持つことは言うまでもない。自国の歴史を正しく理解するためにも、他の国や世界全体を理解することが必要である。本校の3年生での世界史Aは、世界史の近現代史を中心に学習し、世界史の視点から社会科学の方法論を学んでいく。

④評価の観点

- | | |
|----------------------|--|
| (1)関心・意欲・態度
【関】 | 歴史に対しての興味・関心を持ち、歴史学さらに社会科学の方法論を身につけることができたか。 |
| (2)思考・判断
【思】 | 歴史に対しての興味・関心を持ち、歴史学さらに社会科学の方法論を身につけることができたか。 |
| (3)資料活用の技能・表現
【資】 | 教科書・資料集等を活用して、興味を持った事柄について調べることができるか。 |
| (4)知識・理解
【知】 | 授業の内容を理解し、教科書レベルの知識を身につけることができたか。 |

⑤評価の方法

下位目標:授業の内容と世界史の基礎的知識の確認・定着をはかる。

中位目標:歴史に対しての興味・関心を持ち、関連する現代社会の諸事象への理解を深める。

上位目標:歴史を学ぶことを通して、歴史学さらに社会科学の方法論を身に付ける。

以上の目標について、どの段階まで達成できたかを、定期考査中心に、授業中の観察を加味して総合的に評価していく。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4 5 6	第4章 産業化社会の 拡大と成熟	世界の三大宗教 第1節 東アジアの変容 第2節 東南アジアの変容 第3節 南アジアの変容 第4節 西アジア、アフリカの変容 第1節 急変する人類社会 第2節 植民地の拡大と深まる国家の対立	・各地域で生じた変化と時代背景を理解する【知】 ・各地域の変化を比較して特徴を捉える【関・思】 前期中間考査
7 8 9	第7章 二つの世界大戦 の時代	第1節 第一次世界大戦 第2節 戦後秩序の形成 第3節 世界恐慌とファシズム	・大戦の原因とその後の歴史の進展についての理解【知】 ・明治維新後の日本が欧米のアジア進出に対してどのような対応だったのかについての興味・関心【関・思】 ・帝国主義段階に入った列強の国際関係と第一次世界大戦の意義【関・思】 前期期末考査
10 11	第2部 地球社会と日本	第4節 第二次世界大戦	・大戦の原因とその後の歴史の進展についての知識【知】 ・国家の政治経済活動を反映した国際紛争、国際経済の展開に関する理解【知】 ・大戦とその後の現代世界について、原因でもあった日本の果たした役割についての興味・関心【関・思】 後期中間考査
12 1	第8章 冷戦と民族独立の時代	共に生きる世界を作るために	・現代の多様な国際情勢についての基本的知識【知】 ・地域紛争の原因と多極化する国際社会についての理解【知】 ・現代社会における日本の立場、役割についての興味・関心【関・思】